

## 学術研究Ⅱ 課題研究ポスター発表会

### 【概要】

2023年10月27日金曜日、仙台第一高等学校体育館で『学術研究Ⅱ課題研究ポスター発表会』が行われました。今回は新型コロナウイルス感染症対策による制限も緩和され、保護者や他校の先生方、岩手県立盛岡第一高等学校の生徒29名が発表会を見学しました。また、同日午前には本校生と盛岡一高の生徒との交流会として、各研究ゼミの紹介や、各々の学校の様子についての懇談を行いました。発表会では、聴衆から多角的な視点からの指摘や意見、疑問点が活発に挙がり、今後の研究に大いに活かすことのできるような、非常に意義深い時間となりました。



### 【生徒の感想】

#### 【発表会】

- ・ゼミ毎発表会と違って、自分たちの研究を全く知らない人に発表するので、簡潔にわかりやすい流れで説明することに苦労した。
- ・私は文系の研究をしているので、数学を利用して結論を出すことができずに苦労したが、他の文系の発表を聞くことができ参考になった。
- ・いつもより多くの質問が出て、自分たちでは気づけない、新しい見方を得ることができた。
- ・以前と比べて、聴衆を見ながらはっきり発表できてよかったと思う。
- ・他の班の発表は興味のあるテーマが多く、聞きたい質問をたくさん思いついた。
- ・今後の研究に非常に役立つ発表会になったと感じる。



#### 【岩手県立盛岡第一高等学校の生徒との交流会】

- ・盛岡一高の人と交流することに緊張していたけれど、学術研究の話だけでなく、お互いの学校生活についての話などもでき、楽しく対談することができた。
- ・それぞれが行っている研究について、みんなが楽しそうに話しており、またお互いの研究について話を興味深そうに聞いていて、良い雰囲気だった。
- ・自分の研究に興味を持ってくれて嬉しかった。
- ・学校外の人と連絡をとって研究をする機会もあると聞き、大変そうと思った。
- ・動物園や小学校に関わる探究活動をしている班もあり、身近な研究をしているのが良いと思った。



### 【講師の先生から】

一高OBとして、一高らしい研究とは、自由な発想から自発能動的に研究を進めることだと思います。まずは、身の回りの物事から気づき得ることが大切です。今回の発表の中にもすばらしい研究の芽になるものが多くありました。これから自分の周りのものに興味を持って見てみるという姿勢を大事にしてください。

(東北大学電気通信研究所 教授 枝松 圭一 先生)



### 【TAの方々から】

発表会、大変楽しませていただきました。どの班も原稿なしで、限られた時間内に研究の趣旨がよくまとめられていたと思います。

一点、助言をしたいこととして、質問の準備があります。質問もいきなり上手くできるわけではなく、場数を踏んで鍛えていくものです。今回の発表会では、発表前に2~3分、ポスターを見る時間があつたと思います。その時間に予め研究の構成を見ておき、序論・方法・結果・考察のどの部分で質問ができそうか、見当をつけておくとよいと思います。今後の学術活動の更なる飛躍を期待しています。

(東北大学文学研究科 齋田 涼裕 さん)

## 【TAの方々から】

77 回生の皆さん、発表お疲れ様でした。たった 5 分の発表の裏に多くの時間と労力がかけられていると思うと、ただでさえ勉強や部活で忙しい一高生には尊敬しかないです。研究の中身も、ユーモア溢れるものが多く、終始聞き入っていました。

ただ一点アドバイスとして、初めて研究を聞く方に対する配慮がもう少しあってもいいかなと思いました。研究の前提となる序論で社会的な意義や前提となる知識を伝えたり、「研究手法」をビジュアル的に分かりやすく伝えたりするなど、工夫はできるはずですが、せっかく手間ひまかけた研究なので、最後の仕上げである「人に伝える」部分も気にかけるともっといいものになると思います。

引き続き応援しています。ガンガン一高！！

(東北大学法学部 後藤太朗)

2 年生のみなさん、発表お疲れ様でした。とても興味深いテーマを研究している班がたくさんあり、面白かったです。

ポスター発表を見ていて、気づいたことを述べます。まず、全体的に聴講者のことを意識しないでポスターを作っていた班が多かったように思いました。聴講者がわからないような専門用語や固有名詞が多用されているポスターや、実験の内容は詳しく書かれているのに実験の目的が書かれておらず、何のために実験を行っているのかわからないポスターが多く見受けられました。前提知識がある自分たちにとってわかりやすいポスターでも、聴講者にとってはわかりづらいポスターになっているということはよくあります。自分たちは研究について詳しく知っているため、わかりづらいポスターでも理解できてしまい、どこがわかりづらいのか気付けないことが原因です。友達や先生など、その研究に詳しくない人にポスターを見てもらい、助言を貰うことが一番の解決策だと思います。

また、実験結果のデータをそのまま全部載せているポスターもありました。得られたデータを全て載せるのではなく、平均値などを計算して表にしたり、グラフにしたりなど、その研究をよく知らない人にもわかりやすい形式にすることが重要です。また、ポスターはスペースが多くないため、実験の結果を全て載せるのではなく、重要な結果のみを載せる方がわかりやすくなると思います。

今後は、自分たちの研究に詳しくない人にもわかりやすくなっているかを常に意識しながら、ポスターやスライドを作成すると良いと思います。

ポスター発表会お疲れさまでした。既に何回か発表の場を踏んでいるためか、皆さんとても発表が上手だなというのが第一印象です。練習したのだと思いますし、原稿をただ暗記したように見せず、聴衆の顔を見ながら話していた人が何人もいて素晴らしいと感じました。一方で、他の班員が話している間、特に自分の担当が終わった後は床を見つめている人が多いとも思いました。発表は聴衆とのコミュニケーションですので、覚えた原稿を話したら終わり、後で質疑応答に対応するだけ、ではなく、自分たちの説明が伝わっていかどうか聴衆の顔を見ながら考えて、次の発表機会への成長材料にしてほしいと思います。

ポスターのクオリティも総じて高かったです。どうしてもグラフのラベルが小さく読みにくいものが多かった。Excel で図を作る人が多いと思いますが、文字の調整が難しいので、PowerPoint でラベルだけ上から書き直すなどひと工夫するとより良くなると思います。

研究の内容については、結果の扱いをまだまだ改善できると思いました。複数の方法で何かを試して結果が「改善した」とき、例えば「スコアが(何倍か)上がったから」だけではなく、それがどれほど有意なものなのかをきちんと検討してほしいです。実験や調査にしても、期待したことが起こった・起こらなかったのマルバツだけを結果にするのではなく、その背景にある設定の数字や状況、判断の具体的な基準を示してください。それによって皆さんの考察に、より説得力が出ます。ポスターという狭い空間に全てを書くことは難しいですが、皆さんの中で話の筋道、すなわち考察に至るまでの論理をしっかりと立てていけば、何を載せるべきか取捨選択ができます。やや一般的・抽象的な助言になってしましますが、今一度なぜ自分たちがその結論にたどり着いたのか、その結論を言うために必要な情報は揃っているのかを検討して、研究を詰めていってほしいです。

最後に、皆さんの発表の様子がとても良かったという前提のもと、ごくごく一部に原稿を持ちながら片足重心で発表していた人もいたことを書かざるを得ません。原稿はともかく、心の中ではどれだけやる気がなくても、それが態度に出ているのは気付きますし恥ずかしいです。これは一卒業生としての苦言ですので、心当たりのある一高生は次回頑張ってくださいし、皆さんの成長に期待しています。



### 編集後記

今回のポスター発表会を通して、聴衆からの質問や先生方からの講評などにより、それぞれの班の課題が明確になったと思うので、次の発表までにもっと研究を深め、より完成度の高い発表を目指したい。また、他の班の発表を聞く初めての機会だったので、とても刺激になったと思う。これからの学術研究の活動も頑張っていきたい。

(2 学年学術研究委員会広報係)